

三原支所管内より

### 夫婦仲良く柚子作り

(右) <sup>やすざわ まさとみ</sup>安澤 正富さん (69)  
(左) <sup>はるこ</sup>春子さん (70)



柚子の青玉を収穫していました。すでに収穫の時から、柚子独特のとても爽やかな香りがあたり一面に漂っています。私たちの圃場には約300本の柚子の木があり、8月下旬から11月上旬頃まで収穫が続きます。今年は例年以上に質が良く、嬉しい限りです。

どの作物にも言えることだとは思いますが、手を掛ければ掛けるほどその作物は応えてくれます。よく世話をすれば、良い物が生るといことですね(笑)それが嬉しくて、毎日二人で仲良く、柚子のお世話を頑張っています。

### コンバイン乗りこなし、 稲刈り真っ最中

<sup>ひろた てつや</sup>弘田 鉄也さん (46)

ただいま、80アールほどで栽培しているコシヒカリを刈り取っている真っ最中です。今年は台風が来なかった分、稲が倒れることもなく品質は良好で約3.3tほど収穫できました。また来年も、豊作を目指し頑張ります。

私は多趣味なのですが、中でもサーフィンが大好きです！良い波さえあるなら、毎日行きたいくらいです。そんな私は先日、大岐サーフィン大会のロングボード部門に参加したのですが、なんと優勝することができました！農業も趣味も、全力で挑み続けたいと思います。

三崎支所管内より



柿の  
地区

から こんにちわ  
今月の〇〇 気になる人

中村支所管内より

### 長寿の秘訣は海外旅行

<sup>かもち ふみえ</sup>加持 文恵さん (98)

気が付けば、もうすぐで100歳です。大正に生まれた人なんて、皆さんの周りにもなかなかいないのではないのでしょうか(笑)

海外が好きで、昔は世界各地を旅行していました。アメリカ、カナダ、イギリス、エジプト……。思えば、たくさんのおところにきました。中でも、エジプトで見たピラミッドやスフィンクスはとても迫力があり、今でも鮮明に情景を思い出せます。

私の長寿の秘訣は、海外旅行を楽しむこととあと一つ、よく身体を動かすことです。娘が農業をやっているのですが、今でもそれを手伝いますよ。無理は決してせず、マイペースにやっています。

### 教え子たちと一緒に、お米作りを

<sup>ひろい あきら</sup>(右) 広井 暁さん (32)  
<sup>たにぎ 蒼太</sup>(左) 谷崎 蒼太さん (23)

私たちは四万十市にある具同小学校で教師をしています。今日は、教え子たちと一緒にお米を作っている水田に鳥獣対策の防護ネットを設置しました。

食農教育の一環としてお米を作っていますが、実は私たち自身もお米作りに挑むのは初めてのことです。新鮮な気持ちで、子供たちと共にお米について勉強しながら取り組んでいるところです。田を提供していただいた農家の方をはじめ、様々な方々のお力をお借りしながら、この食農教育は成り立っていると感じます。このまま無事に、9月末頃の収穫を迎えることが出来れば幸いです。

中村支所管内より



# できごとピックアップ

地区内のイベントや、地域農家の取り組みなどを紹介します！



JAグリーン四万十店の着工に関して、喜びを語る武政盛博組合長

## 1 幡多地区

### JAグリーン四万十店起工式開催 四万十市最大の直販所へ

JA高知県は8月20日、四万十市でJAグリーン四万十店の新築工事の起工式を行いました。式典にはJAや四万十市長ら行政の関係者、工事関係者など24人が参加。参加者からは、工事の安全と地域農業の活性化を祈願しました。

神事では、神職による祝詞奏上に続き、関係者による「くわ入れ」や玉串の献上などを執り行いました。武政盛博組合長は挨拶で「今回のJAグリーン四万十店新築が現実のものとなり、大変喜ばしい。この大規模な施設を中心として、幡多地区ひいては高知県地域農業が益々活性化していくことを願ってやまない。」と、これからの期待と喜びを話しました。

現在、幡多地区では四万十市と平成28年より協定を結び、老朽化や耐震等に問題がある大型施設の再編整備を進めています。同店の新築は、その計画の一部として実現しました。JAグリーン四万十店は、現在のJAグリーンは中村店を移転オープンさせる形で新築され、一部2階建てとなり直販売場面積は約1.5倍に拡張されます。完成予定は令和3年3月です。完成すれば、同市内でも最大規模の直販所となります。



同研究会は、よさこいミディの生産者増加にも力を入れる

## 2 幡多地区

### 「よさこいミディ」出荷終え 次期作に向け反省会議実施

幡多地区よさこいミディ研究会は8月4日、管内から出荷するミディトマトが令和2園芸年度（令和元年9月1日～2年8月31日）の出荷を終えたことを受け、反省会議を開きました。

同会議には、ミディトマトの生産者をはじめJAや幡多農業振興センターの職員ら15人が参加。出荷量や販路に関する実績報告に耳を傾けながら、次期作の収量アップに向けて活発な意見交換がされました。

同研究会では同園芸年度、11人が22ヘクタールでミディトマト（品種：フルティカ）を栽培し、9月下旬から6月下旬に約90tを出荷しました。次期作に向けて、収量減少を引き起こす重大な病害への徹底的な防除が課題となります。

ミディトマトは大玉トマトとミニトマトの中間ほどの大きさで、40gから150gほどのトマトを指します。フルティカはミディトマトの中でも少し小さな品種で、濃厚な旨味と甘みが特徴。皮が柔らかく、そのまま生で食べても口当たりが気になりません。

## 3 中村支所 定植に向け イチゴ育苗ほ現地検討会実施



大崎さんの育苗圃でイチゴ苗の生育を確認する参加者ら

幡多地区中村支所、ちこ部会は8月6日、例年9月下旬頃から行われるイチゴの定植に向け、四万十市で育苗圃の現地検討会を実施しました。

当日は、同支所管内で「ゆめのか」と「恋みのり」を育苗する大崎さんの圃場を視察。同部会の生産者やJA営農指導員、幡多振興センターの職員ら13人が参加し、苗の生育状況や病害発生の有無、害虫防除の留意点などを確認しました。

令和3園芸年度（令和2年9月～3年8月）、同部会では10人がイチゴの定植を予定しており、「ゆめのか」や「さちのか」などを主として5種類の品種を取り扱います。例年通りならば12月中旬頃から収穫が始まり、3月にはピークを迎えます。

## 4 幡多地区 営農改善協議会水稲部 第一回水稲ほ場巡回実施



参加者らは一つ一つのほ場を丁寧に見回り、意見交換をした

幡多地区営農改善協議会水稲部は7月30日、同地区管内の水稲ほ場を視察巡回しました。JAや幡多農業振興センターの職員ら6人が参加。水稲の生育状況や病害の有無等を確認し、被害があった場合はその対策案等の情報交換を行いました。

参加者らは「たちはるか」や「コシヒカリ」、飼料用となる「夢あおば」などの品種を視察。ほ場によってはクロカメムシなどの害虫による被害や穂もち病等による被害が見受けられましたが、全体的な品質は良好でした。

幡多地区中村支所管内では、今年の早稲の出荷は8月3日から始まり、同日にはコシヒカリやナツヒカリ、あきたこまちなど約13tが同支所の集荷場へ持ち込まれました。

## 5 中村支所 シシトウ出荷ピークへ 雨よけ、露地ともに品質良好



持ち込まれたシシトウの検品作業をするJA職員

7月下旬から8月上旬にかけて、中村支所管内のシシトウの出荷が雨よけ・露地ともに最盛期を迎えました。

本年度は、定植後の夜温低下や寒の戻り等で初期の根張りが鈍く、例年に比べ苗の成長が遅い傾向にありました。また、梅雨が長引いたことによる日照時間の不足も懸念されていましたが、ピーク時の品質は概ね良好。花実付きも増え、7月下旬から収穫のピークを迎えました。

同支所シシトウ部会では現在、48人が約116アールでシシトウを栽培。昨年の出荷量は雨よけが約9.5t、露地が約15tで、今年も同程度の出荷を見込んでいます。

## 6 大方支所 手作り苔玉 猛暑の今夏を涼しげに



思い思いに苔玉を手作りする参加者ら

女性部幡多地区大方支所は8月21日、黒潮町で苔玉作り教室を開きました。同支部の女性部員や地域住民ら、33人が参加しました。

苔玉とは、植物の根を用土と球状に包み、そのまわりにコケ植物を張り付け糸で固定したもので、インテリアとして飾られます。今回は秋田教養を講師に招き、用土を使わず根鉢を丸く削り苔で包む手軽な苔玉作りを体験しました。

参加者の平野節子さんは「実際に作ってみると、見た目よりもかなり難しかったです。それでも完成させることが出来たので満足。玄関などに飾りたい」と笑顔で話しました。

同支部は「ふれあい教室」と称し、様々な内容の教室を来年3月まで毎月開催する予定です。

# 初心者（家庭菜園）向け コマツナを作ろう！



## 栽培のポイント

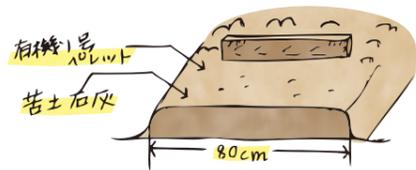
- ①種まきの際、非常に乾燥していると発芽しないので、植付前に畝に湿りを与えましょう。
- ②まき溝を底面が平らになるように丁寧に作り、覆土を均一にして発芽をそろえましょう。
- ③葉が重ならないように、早目に間引きをしましょう。

【作付け計画】 ○:種まき ●:種まき(トンネル) -:生育 ■:収穫

作型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
秋どり									○	■		
トンネル 早春どり					●	■						

## ① 畑の準備

- 圃場の畝幅は80cmで、高さが15cmぐらいが良いでしょう。肥料は、元肥を主体として種まきの一週間前までに施しておきます。



☆元肥施肥例（1㎡当たり）

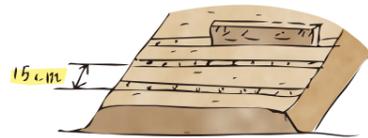
有機1号ペレット	200g
苦土石灰	100g

## ② 種まき

- 3月下旬から10月下旬は、いつでも種まきはできますが、9月下旬から10月下旬が1番味が良くなります。

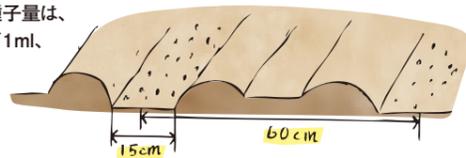
### 〈床まき〉

\*畝に板切れて幅2cm、深さ1cmの溝をつけ、2cmぐらいの間隔で種まき覆土します。



### 〈溝まき〉

\*溝幅いっぱい2cm間隔で種をまきます。1㎡当たり必要種子量は、夏まき、春まきが1ml、秋まきは1.5mlとなっています。



## ③ 間引き

- 本葉が1枚の頃に、込み合っている株や、生育の不揃いの株を間引き、2～3枚になった時に5cm間隔になるように2回目の間引きをします。

## ④ 灌水

- 灌水は、畝が乾かない程度に行います。特に夏まきは乾燥に注意しましょう。

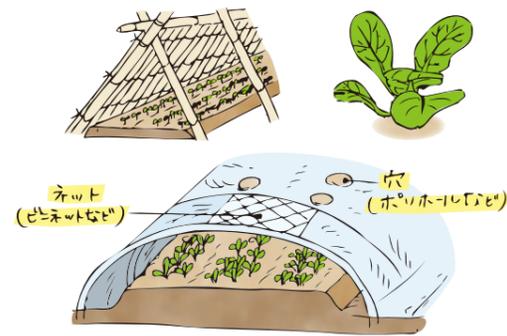
## ⑤ 追肥

- 追肥は、夏まきは生育期間が短いため必要ありませんが、秋まきや、冬まきは2回目の間引き後に施します。 ☆追肥施用例（1㎡当たり）

CDU555	30g
あさひポラス	30g

## ⑥ 防寒対策

- 12月～2月の露地栽培では、低温で生育不良になるので、ビニルトンネル等で、防寒対策をしなければなりません。ただし、日中の換気不足と高温で軟弱徒長になるので、穴の空いたフィルムを使用したりビニルをのけたり対策が必要です。



## ⑦ 収穫

- 収穫は草丈が15～20cmになったら、順次収穫します。



# えいのうへ

## 農業生産活動の改善のために 具体的な「GAP」の取組とは

■幡多農業振興センター 行弘恵（0880-3417070）

これまで様々な機会に紹介してきた「GAP」の取組については、「何のためにやる」ことなのか、皆さんの理解も進んできていると思います。簡単に言うと、消費者や生産者、環境のために「良い農業の取組」を行うこと、それが「GAP」です。しかし、「具体的に何をやるのか」ということになるとまだまだよくわからない、という方が多いのではないのでしょうか。数年前から幡多地域内で「GAP」の取組を推進していく中で、具体的に「良い農業の取組」を行う集出荷場や個人の生産者の事例が増えてきましたので、紹介させていただきます。

**例1）集出荷場の改善事例**  
写真①  
作業台の下に文房具やファイルな

どの置き場所を設置した事例です。以前は作業台の上に放置していたこともあり、出荷物に混入する危険性がありました。  
写真②  
集出荷場GAPチェックの開始当初は電灯が暗く、出荷物の異物混入などの検品が困難だった集出荷場が、電灯を増やした事例です。LEDライトなどに交換し、十分な明るさが確保できました。  
写真③  
段ボールや肥料などの資材を全てパレットの上に置いてある事例です。地面に直に置かないことは衛生的で、別の場所に移すのも容易です。

**例2）生産者Aさんの作業小屋**  
Aさんの作業小屋には大量の不要品が積み上げられ、どこに何があるかわからない状態でした（写真④）。捜し物をしようとして物を動かすと、崩れてくる心配もありました。そこで不要品を捨て整理整頓したところ、何がどこにあるか見やすくなりました（写真⑤）。

**例3）生産者Bさんの農薬保管庫**  
Bさんの農薬保管庫は古いロッカーを利用した物で、スペースは十分ありませんでした。中身の整理をしたところ、使用期限切れや登録失効薬剤がかなり見つかりました（写真⑥）。農薬散布の際、まちがった使用を避けるためにも、処分しなければいけません。

その後、Bさんは整理整頓を行い、農薬を置く場所を栽培品目別に分けて誤用事故が起らないようにしました（写真⑦）。

「GAP」の取組で必要とされている項目は、「食品安全」「環境保全」「労働安全」「人権保護」「農場経営管理」などですが、具体的にどう改善していくかは生産現場ごとに違います。ほ場や作業場などを自己点検し、問題点を見つけたら、改善する方法を考え実行していきます。

ただ、客観的に自分の農業生産活動を見直すのは、経験がないと難しいことがあります。その場合は農業振興センターの普及指導員やJAの営農指導員に気軽にお問い合わせください。



皆さんからのご意見、ご感想、つぶやき、川柳、イラストなど、お便りを心待ちにしています！

# みんなのひろば

仕事をしていた頃は時間が少なく、好きなスイーツもなかなか作れませんでした。時間ができた今は、色々なスイーツを作っています。こうぐり8月号に掲載されていたスイーツはどれもおいしそうで、今度食べに行きたいです。

(中村支所管内・61歳)

▼こうぐり8月号では、暑すぎた今年の夏にぴったりなひんやりスイーツを、盛りだくさんで紹介しました。その後、スイーツを食べに行かれたのでしょうか？ その美味しさに満足して頂ければ、嬉しいです。

小さな家庭菜園で無農薬野菜を育てています。小玉スイカを2本植えたのですが、昨年同様、裂果が目立ちほとんど食べることができませんでした。諦めていたのですが葉の成長も勢いを増し、知らぬ間に実を4つつけていました。

(西土佐支所管内・63歳)

▼無農薬野菜は栽培が大変な分、安全性が高いのはもちろんのこと、味も良好な印象があります。スーパーで「無農薬」の表示を見かけると、積極的に買います(笑) 美味しいスイカに育ち、無事に収穫できるといいですね。

毎月、「幡多地区からこんにちは」のコーナーを特に楽しみにしています。高齢の方も、仕事や趣味を通して人生はつらつと楽しく過ごしている様子に感心致しました。自分も、明日からまた頑張ります。

(三原支所管内・79歳)

▼私事ですが、幡多地区の広報担当になり、約5か月が経ちました。様々な方へ取材をする中で感じたことは、とても元気で活力に溢れている方々が幡多地区には多い、ということ。お話をしながら、元気を分けていただいています。

コロナで外出がままならない今の時期。早朝から畑に出かけ野菜の世話や草引きをして、心身ともにすっきりさせています。汗を流した後は、採れたてのトマトやキュウリを丸かじり。最高の味です。

(中村支所管内・64歳)

▼丹精込めて野菜のお世話をした後に、自分が育てた採れたて野菜を豪快にがぶっと。さぞ美味しいことでしょう。良い汗もかき、その美味しさは2倍3倍にもなりそうです。

家族でスイーツ特集の記事を読み、これが食べたい！あれが食べたい！と会話が止まりませんでした(笑) 主人はマンゴーかき氷、私はSORAソフト、上の子は四万十のフレッシュミルクとイチゴ、下の子はアイスフロート。皆バラバラですが、皆で食べに行きたいです(笑)

(宿毛支所管内・39歳)

▼8月号に掲載しているスイーツは、どれも自信をもって紹介させていただいております！ 皆さん、すべてのスイーツを食べ、全制覇していただけたでしょうか？(笑)

今年はずしくトマトが豊作でした。子どもたちにも送ったり、隣近所の方々にも食べていただき喜んでもらいました。来年も頑張りたいものです。

(宿毛支所管内・75歳)

▼今夏の猛暑に負けることなく、すくすくと育ってくれたようですね。来年は今年以上の大豊作を目指し、ぜひまた頑張ってくださいね！

## INFORMATION

### お知らせ



## JAグリーン四万十店への 出荷者 大募集中!!

～自慢の野菜や果物、加工品を出荷しませんか?～

JAグリーンセンター中村店は店舗拡大のため、四万十市立中央公民館跡地にJAグリーン四万十店として移転オープン致します。新店舗での営業は、令和3年4月を予定しております。

つきましては、幡多地区全域から出荷組合員を新規募集いたしますので、ご興味のある方はお気軽にお問い合わせください。

**お問い合わせ先** JAグリーンセンター中村店 市川・岡本  
TEL: 0880-34-4499

## 家の光新刊図書のご案内

- 人生で大事なことは  
みんなゴリラから教わった  
山極寿一著  
定価：1,430円(税込)

世界的ゴリラ研究者が、アフリカで出会ったゴリラの姿とそこでの経験から学んだ人生の教訓をやさしい言葉で語る。



- 免疫力が上がる発酵しょうが  
マズジマトモコ著  
定価：1,320円(税込)

免疫力アップや冷えの解消に効く万能調味料。『発酵しょうが』。半年間保存でき、おかずや汁物など使いたい時にすぐ使える。

